

犯して!はらませて!



りょうじょくつ!

男共の憧れの的を徹底陵辱!

「ひっ…なっ、何なのあなた達っ
はっ、離しなさいっ!」

「はあ?」この状況でよくそんな口聞けるなオイ
離してください、だろぅが。ま、どっちにしても離しやしねえげぢw

「な…何をする気…なの…」

「ああ、アンタ男共に随分人気あるらしくてなあ
アンタとやれるなら、いくらでも払うっつうヤツが多いんだわ」

「な…ふ…ふ…さげないで!!
キリト君以外の人となんて死んでもイヤっ!
やっ、やめてっ! 離してっ!」



「ぎやあぎやあうるせえなあオイ
お前ちよつと」コイツに自分の立場分かせてやれよ」

「あいよつ。んじゃ皆の憧れ、アスナ様のオマン」の具合は
どんなもんかねつと…うほっきつうう！」

「ぎっ！ひっ、いぎいっ！いっ…いきなりそんな…っ
さっ、裂ける！ぬっ、抜いてっ！それ以上入れないでっ！」

「へーきへーき、すぐ良くなるって」

「あなたのなんかでっ、良くなるわけっ…ひぐっ…！」

「やだっ、やだよ」んなのっ…キリト君…助けてっ…」



「あ、そろそろイきそうだわ
今臆内にだしてあげますからねえアスナ様」

「な！や、やめてっ…それだけはっ！」

「もう遅いっつうの…オラっだすぞ！」

「や、やめ…うあっ…？あ…熱…「…」れして…
だ…だされて…るの…？そ…そんな…」

うあっ！

おっお

おっお

ビュウ

どん

「おいおい、一発臆内にだされたくらいで
呆けてる場合じゃねえぞ？コイツのしつこさは半端じゃねえからなあ」

「まあねえ、こんな上玉なら半日はイケるわ」

「え…そ…そんな…いいいや…
た…助けて…お…お願いだから…」

ドッ



数時間後

「おおい出る」

「……あ……あ……も……もう……やめ……
あ……ま……また膣内に……も……もう入らない……から……」

「へっ、大分大人しくなったな、まあ
こんだだけブツ通してハメラれ続けければ無理もねえか」

「お……お願い……します……も……もう
許して……許して下さ……」

「ああ、許してやるよ。今日のところは、だけどなあ。
売り物にする前に、明日からたっぷり仕込んでやるからよ」



「そんなじゃ今日はこの胸で
やらせてもらおうかなあ」

「む、胸で…っ…やっ…
そ、そんな乱暴に掴まないで…」

「これくらいじゃないと男はイけないんだって
おおっ、マンコも一級品だったけど
胸も相当…」

むっ

グッ

果乳

「んっ…あっ…」

（ひっ…お…おちんちんがこんなに
間近に…それに…この匂い…
気持ち悪い…っ！）

ム



「はあっはあっ、この柔らかさにこの弾力っ
たまんねえっ、アスナ様最高っ」

「んっ、んっ、んっ、んっ」

「あら、今日は随分
大人しいんですね、昨日はあんなに
ヒイヒイ言ってたのに」

「んっ」

「んっ」

「んっ」

「別に抵抗しても無駄って
わかっただけよ、胸くらい
好きにすればいいじゃない」

（キリト君なら、キリト君なら
きつと助けに来てくれる。っ
だから、それまでは耐えないと。っ）



「ん……ん……」

(ま、瞼の上に精液が……やつ……く、口の上にも……！
ちや、ちゃんと閉じてないと……入ってきちゃう……)

「ははっ、さっきまでのすまし顔もよかつたけど
今の顔も最高ですよお、どうですかアスナ様あ？
恋人以外のザーメンを顔中にぶっかけられた気分はっ」

「2……2……2……」

「あ……らら泣いちゃったw」

(な、泣いちゃダメ……
キリト君が来るまで耐えないと……
こんなの……なんて……なんだから……)



「う、うわっ……」

「ああ、いいぞ。その調子だ
へっ、中々いい感じにチンポの扱いに慣れてきたみたいだな」

「おおお・アスナちゃんが俺のチンポを……たまんねえっ」

ニッコ

はま

んっ

ニッコ

「んっ、はあっ……はあっ……か……硬……」

（や、やだ……この人のおちんちん……
扱くたびに硬くなって……い……痛くないの……かな……）

「はあっはあっ、アスナちゃんの口、最高だったよお」

「あゝあゝ口からダラダラ溢しやがって
ちゃんと飲み込めつつうの、まだまだ調教足りてねえみたいだなあ」

「あ……あ……うあ……」「……んなの……飲め……ないよお」

「だいじょぶだいじょぶ、そのうち癖になるくらい
仕込んであげるからね」

ぐま

あ

「無理……んなの……絶対無理……」

（苦くて、生臭くって……こんなドロドロしたものの……）

き……き……き……
き……キリト君……まだ……なの？……つ……つ……ら……いよ……キリト君……

ドロ



「オラ、とっとと腰おろせや」

「わ、わかったわよ……んっ……んっ……あっ……」

「はっ、何感じてんだよ
散々チンポ相手にしてマンコ舐めていたのかよ？」

「はあっ、ああっ……そ……そんなわけ……」

「そのワリにはすんなり入ったけどなあ？
おら、もっと足開いてお前のスケベなマンコ
皆に見せてやれよ」

「……んっ……んっ……は……恥ずかしい……よ……」

「はあっはあっ、アスナちゃんのマンコ……
あんなにずっぽりチンポ啜えて……っ
たっ……たまんねえ、もう我慢できねえよっ」

あ……

「……え……な……何……？」



「はあっはあっ、す、す」かったよアスナちゃん」

「あ……がっ……うあああ……」

「へっ、ケツの穴ひくつかせやがってw
ケツマンコにザーメンぶちこまれるのが
そんなに気に入ったのかよ？」

「あ……は……うあ……」

「ありや、アスナちゃん
聞「えてないみたいよ？」

「ああ、派手にイって意識とんじまった
みたいだな、この調子なら堕ちんのも
早そうだな、こりゃ」

あ……

あ……

うああ

うああ

エロク

う

う

う

（あ、頭真っ白になって……
何も……考えられないよ……
キリト君……私……もう……
……ゴメンね……キリト君……）



数ヶ月後

「あぁっ、あ、アスナさん…ほ、僕達初めてなんで…そ…その…」

「あは♡そうなんだ♡三人とも童貞さんなんだね♡
じゃあ優しくしてあげなきゃね、ちゅっ♡」

「んっっ、アスナさんが僕のチンポにキスして…っ」

「ふふっ♡オチンポさんにキス、そんなに気に入った？
じゃあもっとしてあげるね♡ちゅっ♡ちゅっ♡」

「あぁっ、きっ、気持ちいいですっ、アスナさんっ」

「アスナちゃんのオマンコっ
すげえっ、チンポとるけそうだった」

「アスナ様の綺麗な指で手コキも
たまんねえよっ」

ちゅっ

ちゅっ

「アスナさんもっと、もっとキスしてっ」

「ええ〜♡どうしようかなあ♡」

「そ、そんなっ」

「くすっ♡嘘だよお♡キスよりもおっとい事してあげる♡
ぺろっ♡えろおっ♡ふふっ♡もうこんなにお汁溢れて♡かわいいなあ♡」

「アスナさんが僕のチンポをペロペロしてくれるなんてっ
ゆっ、夢みたいだっ」

「オマンコももっと締め付けてあげるね♡」

「あぁっ、アスナちゃんっ、そんな締め付けたらっ
きっ、気持ちよすぎてすぐイっちゃうよっ」



「あぁっ、も、もうイクっ」

「いいよ♥アスナにっばいザーマン頂戴♥」

「ほっ僕も、もうっ」

「あはっ♥出た♥童貞ザーマンっばい出た
あ、あぶっく、口の中にも♥」

「お、俺もイクっ」

「やあ♥オマンコにもザーマンっばい♥
もう妊娠してるのにそんなに出したら、
ビックリしちゃうよお♥」



「はあっはあっ、気持ち良かったあ」

「ああ、最高だったよ、大金払った甲斐あったわ」

「くすっ♡そんなに良かったの？♡
ホントにかわいいなあ童貞さんは♡
じゃあコレはサービスだよ♡」

「え？あ、アスナさんっ、そんなっ、ああっ」

はあ♡

えあ♡

へちや♡

へちや♡

わっお♡

「れるお♡ペちよ♡れちよ♡えるお♡
んっ、んくっ♡んぐっ♡
はあっ♡おいし♡こっつり濃厚な童貞ザメン♡
癖になりそうだよお♡皆、また来てね♡
今度はおおっとエロい事してあげるからね♡」

んん♡

んん♡



「おらっ、どつたオレのチンポの味はっ」

「はにや♡最高でしゅっ♡
気持ち良すぎて♡はひっ♡
頭おかしくなっちゃいまっ♡」

「結構な額稼いでるからなあ
褒美として今日は一目中ハメ倒してやるからっ」

「あ、ありがとっ♡ごいまひゅ♡
はっ♡あはっ♡はあああっ♡
や、やっぱり♡主人様のチンポが「一番でしゅっ♡
ご褒美チンポ最高おっ♡」

は♡

あは♡

はひ♡





「お、やってんなあ、アスナ様お久しぶりっすね
って、あらあらしばらく見ないうちにポテ腹になっちゃってまあ」

「おう、お前が、久しぶりだな
まぜてやるうか？コイツも随分調教できたからよ」

「んじやお言葉に甘えて
アスナ様頼むわ」

「は、はい♡ん♡はむっ♡
ん♡ん♡ちゅ♡ん♡ぐ♡ちゅ♡ん♡ちゅ♡ん♡ちゅ♡ん♡」

「おほっ、随分フェラが上手くなったねえ
どんだけテンポ啜えてきたんすかアスナ様」

「じゅるっ♡ちゅぽっ♡ぶはっ♡
か、数え切れないくらいでしゅ♡
じゅぽっ♡しゅぽっ♡しゅぽっ♡しゅぽっ♡」

ん♡ちゅ♡ん♡

ちゅぽっ♡
ちゅぽっ♡

「ああ……う……ああ……あ……」

「なんかもう限界なんじゃないですかこの人？
全然反応ないんですけど」

「ああ、最近意識トんじまったままっつうのが
多くてよ、使い物になんねえんだわ」

「ああ……ああ……ああ……」

「マンコの締め付けもユルユルだし
これじゃオナホと変わんねえしなあ」

「そろそろ捨てちまいます？
ガキも産まれそうだし」

「そうだな、金になんねえもん持ってもしょうがねえし
最後にハメ倒して捨てるかあ」

あ、は、

あ

ガキ

ぐちゃ

ぐちゃ



「おっおっおっすぞぞぞ」

「……………あ……………」

「あゝあ、ザーマンも込まれても
もう全然反応しないっすね」

「ああ、もう完全に駄目だなこりゃ」

「……………あ……………」

「この人もう……………しか言わないし
これが潮時っすね」

「んじゃ撤回の準備でもすつか」

ドクドク
ドクドク
ドクドク

ドクドク
ドクドク
ドクドク



